

鵜川水系・沙流川水系流域治水プロジェクトの更新について

鵠川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～人と自然が輝く清流のまち“むかわ町”を洪水から守る治水対策の推進～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、鵠川水系においても、基幹産業であるレタス等の農業生産地の資産が集中していることから、以下の事前防災対策の取組みを実施していくことで国管理区間においては、鵠川流域で甚大な被害が発生した戦後最大の平成4年8月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

位置図



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、樹木伐採
- ・堤防整備
- ・既存ダム2ダムにおける事前放流等の実施及び施設整備・体制構築
(関係者：国、北海道、市町村、電力会社など)
- ・治山対策
- ・森林整備
- ・かんがい排水事業による排水路整備
- ・地震・津波対策 等



河道掘削(室蘭開発建設部)



治山対策
(北海道森林管理局、北海道)

●被害を減少させるための対策

- ・消防庁舎(むかわ支署)の嵩上げ
- ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の提供 等



消防庁舎の嵩上げ(むかわ町)

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水害リスク空白域の解消に向けた取組み
- ・マイタイムラインの普及推進
- ・多機関連携タイムラインを活用した訓練
- ・防災教育の実施
- ・公営住宅などの屋上に避難場所を設置
- ・水防資材の備蓄
- ・防災気象情報の利活用促進 等



タイムラインを活用した訓練(むかわ町)

●グリーンインフラの取組み 詳細次ページ



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

鵜川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～人と自然が輝く清流のまち“むかわ町”を洪水から守る治水対策の推進～

●鵜川では、基幹産業である農業生産地等の資産が中下流部に集中する流域の特徴を踏まえ、流域全体を俯瞰し、国、道、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短 期】鵜川流域の人口・資産が集中する下流部で堤防整備、かつ、農業排水路及び水位低下を目的とした中流域の河道掘削を実施するとともに、あわせて、消防庁舎の嵩上げ、マイタイムラインの作成等を行う。

【中 期】引続き中流部の浸水被害を防ぐために河道掘削を実施。

【中長期】人口・資産が集中する穂別地区等の河道掘削を実施。

【ロードマップ】

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域人口・資産が集中する鵜川下流部の堤防整備	室蘭開発建設部	下流部(豊城築堤)		
	鵜川中流部の資産を守る河道掘削	室蘭開発建設部	生田・旭岡地区	仁和・豊和泉地区	豊田・穂別地区
	山地災害から流域を守る治山対策	北海道森林管理局 北海道	治山施設等の整備		
	森林の水源涵養機能維持・向上のための森林整備	北海道森林管理局 北海道、市町村 等 森林整備センター	植栽・間伐などの森林整備を実施		
	河川への急激な雨水流出を抑制する流出抑制対策	室蘭開発建設部 北海道	農業排水路の整備・田んぼダム(むかわ町)		
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まいの工夫	むかわ町	消防庁舎嵩上げ(むかわ町)		
	多段的な浸水リスク情報の提供	室蘭開発建設部	リスクマップ作成		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	被害軽減対策	むかわ町 室蘭地方気象台 旭川地方気象台	避難場所設置、マイタイムラインの推進(むかわ町)		
	早期復旧のための対策	むかわ町 占冠村	水防資材の備蓄(むかわ町、占冠町)		
	防災気象情報の利活用促進	室蘭地方気象台 旭川地方気象台	防災気象情報の利活用促進		
グリーンインフラの取組	魚類、水生生物の生息環境の保全	室蘭開発建設部	魚類、水生生物の生息環境の保全		
	シギ・チドリ類など水鳥の採餌場・休憩地(中継地)としての河口干潟の機能を保全	室蘭開発建設部	河口干潟の機能を保全		
	地域住民・関係機関と連携した河川環境学習	室蘭開発建設部 むかわ町	河川環境学習		

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

■事業規模

河川対策(約 121 億円)

対策内容 河道掘削、堤防整備 等

鵜川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～人と自然が輝く清流のまち“むかわ町”を洪水から守る治水対策の推進～

●グリーンインフラの取組 『河口干潟の保全をはじめとした多様な生物の生息環境保全』

- 鵜川流域は多様な動植物が生息・繁殖する豊かな自然環境を有しており、サケやシシャモについては地域の重要な水産資源となっています。また、鵜川河口に位置する河口干潟においてはシギ・チドリ類の重要な採餌場や休憩地（中継基地）となっており、その環境を保全し次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境を有しています。
- 鵜川流域においては、サケやシシャモ等多様な動植物が生息・繁殖する豊かな自然環境の保全を目標として、今後概ね10年間で魚類、水生生物の生息環境に配慮した河川整備を実施するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。

位置図



むかわ
鵜川

■グリーンインフラメニュー

- 生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成
 - ・シギ・チドリ類など水鳥の採餌場、休憩地（中継地）としての河口干潟の機能を保全

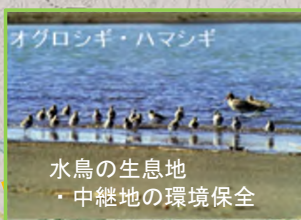
- 治水対策における多自然川づくり
 - ・魚類、水生生物の生息環境の保全

- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
 - ・地域住民・関係機関における河川環境学習

- 魅力ある水辺空間・賑わい創出
 - ・水辺の賑わい空間創出



干潟の保全



水鳥の生息地
・中継地の環境保全



環境学習



環境学習



【全域に係る取組】

- ・魅力的な水辺空間のPRや水辺利活用を促進し、地域振興を図る（かわたびほっかいどう）
- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

鵡川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

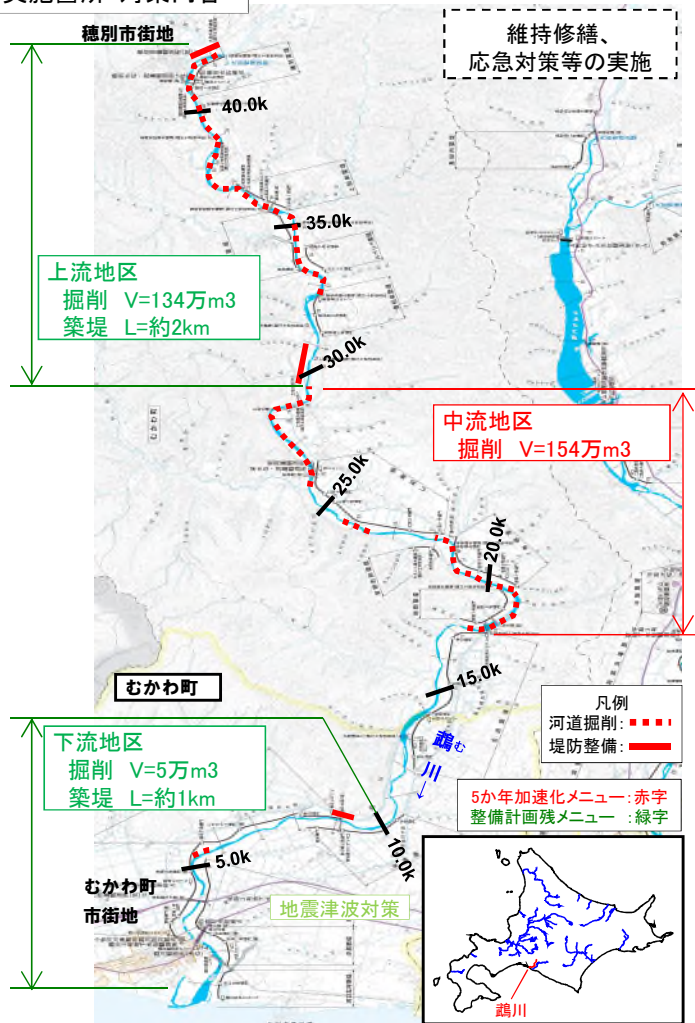
～人と自然が輝く清流のまち“むかわ町”を洪水から守る治水対策の推進～

○人口・資産が集中する中流地区での河道掘削がR7までに完了することで、鵡川の下流域における治水安全度の向上が可能。

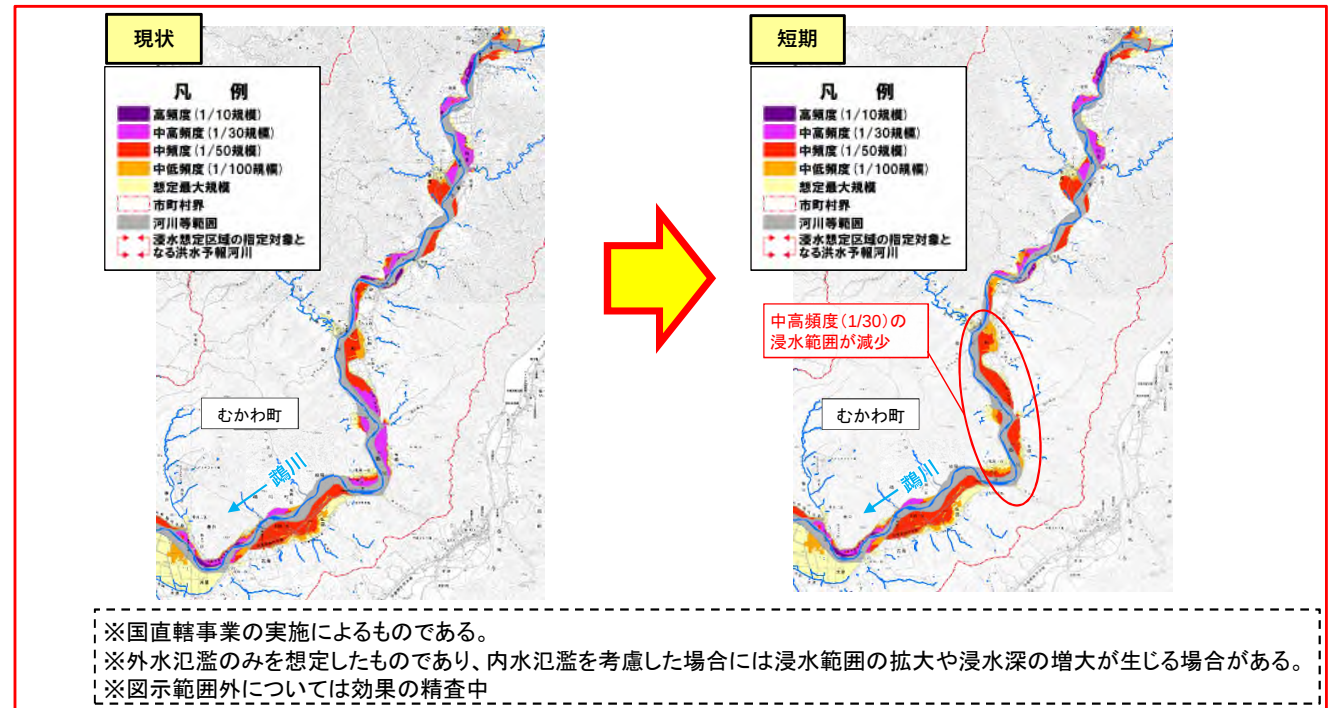
短期整備(5か年加速化対策)効果：河川整備率 約30%→約62% 地震津波対策 約25%→約25%

※河川整備率として、河川整備計画において定めた河道整備流量を流すことが出来る断面を確保している国管理区間の割合
※地震津波対策として、河川構造物の耐震化、樋門の自動化、遠隔操作等を調査検討中

実施箇所・対策内容



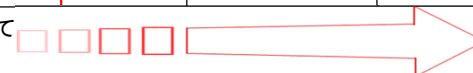
※実施内容・数量については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。



区分	区間	対策内容	工程		
			【5か年加速化対策】 短期(R3～R7年度)	中期(R8～R10年度)	中長期(R11～R14年度)
氾濫をできるだけ 防ぐ・減らすための対策	①下流地区	掘削	R4	100%	
		築堤		100%	
	②中流地区	掘削	100%		
		築堤			100%
	③上流地区	掘削			100%
		築堤			100%

【短期整備完了時の進捗】
中流地区 掘削 100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって
変更となる場合がある。



北海道では全国でも特に気候変動の影響が大きく、
更なる対策を推進

鵜川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取り組み】

～人と自然が輝く清流のまち“むかわ町”を洪水から守る治水対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：62%
（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



1町村
（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



0施設
（令和3年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 6箇所
（令和4年度実施分）
砂防関係施設
の整備数 0施設
（令和4年度完成分）

立地適正化計画における
防災指針の作成



1町村
（令和4年12月時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 8河川
（令和4年9月末時点）
内水浸水想定
区域 0団体
（令和4年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 16施設
土砂 1施設
（令和4年9月末時点）
個別避難計画 0町村
（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

（室蘭開発建設部）



河道掘削

・鵜川本川の洪水を安全に流下させるため河道掘削を実施。

（室蘭開発建設部）



農業整備事業（排水路整備）

・排水路整備を整備することで、河川への急激な雨水流出を抑制する効果を期待。

被害対象を減少させるための対策

（むかわ町）



むかわ町 消防庁舎（鵜川支署）の嵩上げ

むかわ町では、平成30年の北海道胆振東部地震で損壊した胆振東部消防組合消防署鵜川支署が浸水想定区域内に位置していることから、庁舎の建て替え工事にあわせて盛土により嵩上げすることで、浸水被害を軽減を図る取組を実施している。

また、付加機能として大津波時には、津波浸水想定区域内の町役場庁舎に代わり、鵜川支署の新庁舎を災害対策の拠点として活用するほか、新庁舎屋上を住民の避難場所としても解放することで、災害により強いまちづくりを進めている。

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

防災教育の実施

児童への実践的かつ専門的な防災教育を通じて、防災・減災に関する意識を向上してもらうとともに、各種災害に対して自らが考えることの大切さに気づいてもらうことを目的とし、穂別小学校において、河川防災学習を実施した。

穂別小学校 河川防災学習 開催結果

～大雨から身を守る＆マイ・ハザードマップをつくろう～

開催概要

実施場所	むかわ町立穂別小学校（勇払郡むかわ町穂別114-2）
実施日	令和4年9月13日（火）
実施時間	13:30～15:05（5分休憩含む）
対象学年	第5学年 19名（回工委）
対象科目	理科：大雨から身を守る 社会：マイ・ハザードマップをつくろう



むかわ町立穂別小学校



座学講習



ハザードマップを活用したグループ学習

沙流川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～ブランド食材と伝統文化が生きる街「ひだか・びらとり」を洪水被害から守る治水対策の推進～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、沙流川水系においても、基幹産業であるトマト生産地や軽種馬の生産育成地等の資産が集中していることから、以下の事前防災対策の取組みを実施していくことで国管理区間においては、沙流川流域で甚大な被害が発生した戦後最大の平成15年8月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

位置図



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、樹木伐採
- ・既存ダム3ダムにおける事前放流等の実施・体制構築（関係者：国、北海道、市町村、電力会社など）
- ・土砂災害対策（砂防関係施設の整備）
- ・治山対策
- ・森林整備
- ・かんがい排水事業による排水路整備等
- ・沙流川総合開発事業（平取ダム）
- ・地震・津波対策 等



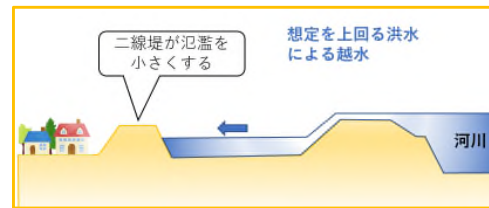
河道掘削（室蘭開発建設部）



治山対策
（北海道森林管理局、北海道）

●被害を減少させるための対策

- ・二線堤等の整備検討
- ・農地の嵩上げ検討
- ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の提供 等



二線堤整備イメージ（日高町・平取町）

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水害リスク空白域の解消に向けた取組み
- ・マイタイムラインの普及推進
- ・多機関連携タイムラインを活用した訓練
- ・地域ハザードマップの作成
- ・GIS位置情報等を活用した要避難配慮者支援の推進
- ・防災教育の実施
- ・水防資材の備蓄
- ・公共施設等建設時に避難場所の設置等を検討
- ・防災気象情報の利活用促進 等



地域ハザードマップの作成（平取町）

●グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

沙流川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～ブランド食材と伝統文化が生きる街「ひだか・びらとり」を洪水被害から守る治水対策の推進～

- 沙流川では、基幹産業である農業生産地、軽種馬生産育成地等の資産が中下流部に集中する流域の特徴を踏まえ、流域全体を俯瞰し、国、道、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
- 【短期】沙流川流域の人口・資産が集中する下流部で水位低下を目的とした河道掘削を実施するとともに、農業排水路整備及び平取ダムの建設等を実施。あわせて、地域ハザードマップ、マイタイムラインの作成等を行う。
- 【中長期】引続き人口資産が集中する中流部の河道掘削を実施。

ロードマップ】 ※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

区分	対策内容	実施主体	工程	
			短期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	沙流川流域を洪水被害から守るダム建設	室蘭開発建設部	平取ダムの建設	
	沙流川中下流部の資産を守る河道掘削	室蘭開発建設部 北海道	下流部	中流部
	土砂災害から流域を守る砂防施設の整備	北海道	砂防施設の整備	
	山地災害から流域を守る治山対策	北海道森林管理局 北海道	治山施設等の整備	
	森林の水源涵養機能維持・向上のための森林整備	北海道森林管理局 北海道、市町村 等 森林整備センター	植栽・間伐などの森林整備を実施	
	河川への急激な雨水流出を抑制する流出抑制対策	北海道	農業排水路の整備	
被害対象を減少させるための対策	多段的な浸水リスク情報の提供	室蘭開発建設部	リスクマップ作成	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	被害軽減対策	平取町 室蘭地方气象台	地域ハザードマップの作成(平取町) マイタイムラインの推進(日高町・平取町)	
	早期復旧のための対策	日高町 平取町	水防資材の備蓄	
	防災気象情報の利活用促進	室蘭地方气象台	防災気象情報の利活用促進	
グリーンインフラの取組	魚類、水生生物の生息環境の保全	室蘭開発建設部	魚類、水生生物の生息環境の保全	
	かわまちづくり	室蘭開発建設部 平取町	かわまちづくり	
	水質調査、水生生物調査等の河川環境学習	室蘭開発建設部 日高町、平取町	水質調査、水生生物調査等の河川環境学習	

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

- 事業規模
- 河川対策（約 204 億円）
対策内容 河道掘削、ダム建設 等
- 砂防対策（約 8 億円）
対策内容 砂防関係施設の整備

沙流川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～ブランド食材と伝統文化が生きる街「ひだか・びらとり」を洪水被害から守る治水対策の推進～

●グリーンインフラの取組 『魚類の産卵環境の保全をはじめとした多様な生物の生息環境保全・創出』

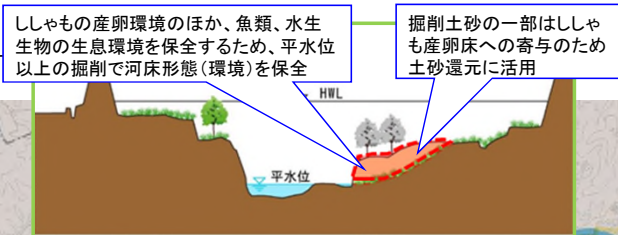
- 沙流川流域は多様な動植物が生息・繁殖する豊かな自然環境を有しており、サクラマスやシシャモについては地域の重要な水産資源となっています。また、この流域は自然とアイヌの伝統、開拓の営為が織りなす多文化な景観として国の重要文化的景観にも選定された貴重で良好な景観が広がるなど、その環境を保全し次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境が多く存在しています。
- 沙流川においては、サクラマスやシシャモ等多様な動植物が生息・繁殖する豊かな自然環境の保全を目標として、今後概ね10年間で魚類、水生生物の生息環境に配慮した河川整備を実施するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。

位置図



■グリーンインフラメニュー

●治水対策における多自然川づくり ・魚類、水生生物の生息環境の保全



●魅力ある水辺空間・賑わいの創出 ・かわまちづくり ・水辺の賑わい空間創出



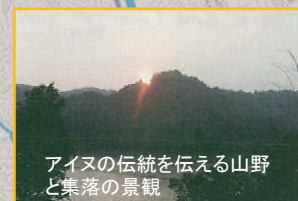
●自然環境が有する多様な機能活用の取組み ・水質調査、水生生物調査等の河川環境学習



河道掘削（多自然川づくり）

水辺の賑わい空間の創出（かわまちづくり）

環境学習



自然とアイヌの伝統、開拓の営為が織り成す多文化な河川景観

アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観

重要文化的景観



森林整備

奥沙流ダム

【全域に係る取組】

- ・魅力的な水辺空間のPRや水辺利活用を促進し、地域振興を図る（かわたびほっかいどう）
- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

沙流川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～ブランド食材と伝統文化が生きる街「ひだか・びらとり」を洪水被害から守る治水対策の推進～

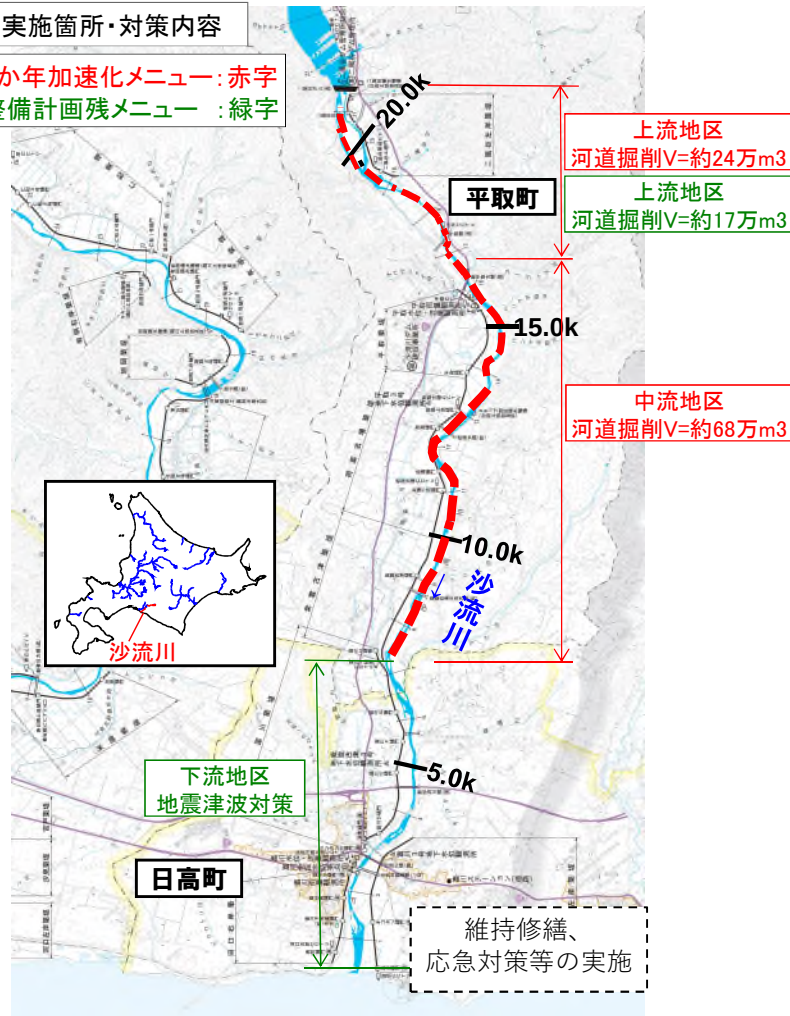
○平取ダムがR3に完了することや中流地区の河道掘削の完了にともない、人口・資産が集中する中・下流域での治水安全度の向上が可能。

短期整備(5か年加速化対策)効果：河川整備率 約48%→約96% 地震津波対策 13%→13%

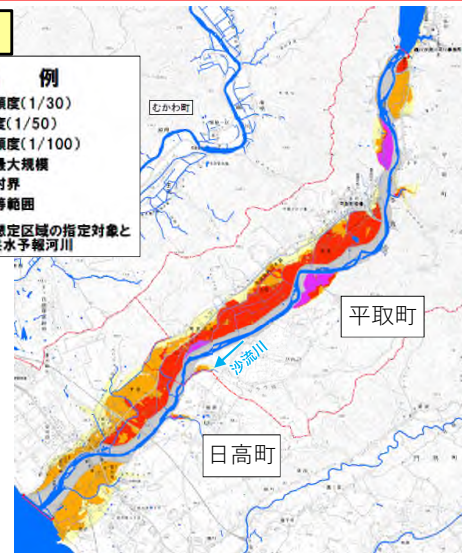
※河川整備率とは、河川整備計画において定めた河道整備流量を流すことができる断面を確保している国管理区間の割合
※地震津波対策として、河川構造物の耐震化、樋門の自動化、遠隔操作等を調査検討中

実施箇所・対策内容

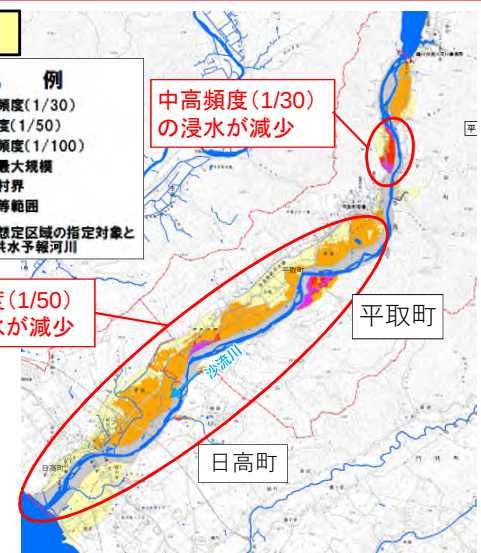
5か年加速化メニュー：赤字
整備計画残メニュー：緑字



現状



短期



※国直轄事業の実施によるものである。
※外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。

区分	対策内容	区間	工程	
			R4 【5か年加速化対策】 短期(R3～R7年度)	中長期(～R8年度)
氾濫をできるだけ 防ぐ・減らすための 対策	河道掘削	中流地区	100%	
		上流地区	60%	100%
	ダム事業	平取ダム	100%	
	地震津波対策	下流地区		100%

【短期整備完了時の進捗】
中流地区 河道掘削 100%
上流地区 河道掘削 60%

※実施内容・数量については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

北海道では全国でも特に
気候変動の影響が大きく、
更なる対策を推進

沙流川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取り組み】

～ブランド食材と伝統文化が生きる街「ひだか・びらとり」を洪水被害から守る治水対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：96%
（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



1町
（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



0施設
（令和3年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 4箇所
（令和4年度実施分）
砂防関係施設
の整備数 0施設
（令和4年度完成分）

立地適正化計画における
防災指針の作成



0町
（令和4年12月時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 1河川
（令和4年9月末時点）
内水浸水想定
区域 0団体
（令和4年1月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 3施設
洪水
土砂 0施設
（令和4年9月末時点）
個別避難計画 1町
（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

（室蘭開発建設部）



河道掘削

・沙流川本川の洪水を安全に流下させるため河道掘削を実施。

（日高振興局）



農業整備事業（排水路整備）

・排水路整備を整備することで、河川への急激な雨水流出を抑制する効果を期待。

被害対象を減少させるための対策

河道掘削土を活用した農地の嵩上げ

（室蘭開発建設部）



・河道掘削土の有効活用として、流域の農地へ運搬している。運搬先の農地では降雨の際の浸水被害の軽減のほか、浸水後の排水不良の軽減、隣接農地との標高を揃えることにより使いやすさを高めることなどの効果を期待。

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

防災教育の実施

・児童への実践的かつ専門的な防災教育を通じて、防災・減災に関する意識を向上してもらうとともに、各種災害に対して自らが考えることの大切さに気づいてもらうことを目的とし、富川小学校における「一日防災学校」の一環として、座学講習とハザードマップを活用したグループ学習による河川防災学習を実施。

富川小学校 河川防災学習 開催結果

～大雨から身を守る & マイ・ハザードマップをつくろう～

開催概要

実施場所	日高町立富川小学校（日高町富川東1丁目1-1）
実施日	令和4年9月6日（火）
実施時間	8:30～10:05（5分休憩含む）
対象学年	第5学年 52名（体育館にて一斉実施）
対象科目	理科：大雨から身を守る 社会：マイ・ハザードマップをつくろう



日高町立富川小学校



座学講習



ハザードマップを活用したグループ学習